みつぎ便り

第180号　9月号　令和3年8月1日発行　http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report
板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

キバナコスモス

ボート小屋のわきの花壇に、風で舞っている数個のオレンジ色の花が見えます。全体の印象からコスモスのようですが、花の色彩や葉幅から少し違う感じがします。背丈も低めです。その花の名前は、花の色の通り「キバナコスモス」。キク科コスモス属の一年草です。原産地はメキシコで、大正時代に来日しました。

やせた土壌でも、適度な水を与えれば成長する丈夫な植物です。日照が必要で夏の暑さに強く、コスモスより早めに花が咲き始め、長持ちします。また、繁殖力も旺盛です。

見次公園のキバナコスモスも昨年のこぼれ種から成長したものです。花壇の周りを探してみると、ありました。池のふちに元気にオレンジに色の花を咲かせています。

このように丈夫で、繁殖が強いので、近い将来、日当たりの良い道路わきや空き地に、元気よく咲いているキバナコスモスの姿が見られるようになるかもしれませんね。（敦）

オニヤンマ

オニヤンマは日本に生息する最大のトンボ（蜻蛉）で、自分が子供の頃（六十年ほど前）の子どもたちにとってカブトムシに並んで昆虫の横綱でした。その大きさもですが踏切遮断器の竿のように黒色の体と腹の節ごとに、黄色く一本づつの横しまと、そして鮮やかな緑色の複眼が特徴の非常に目立つトンボです。飛んでいるときは羽を上手に使い前後、上下、左右の六方向に自由に飛び回ります。この飛翔力を武器にハエ、蚊などを捉えて餌としています。

成虫の寿命は一、二ヶ月ですが、幼虫のヤゴは羽化までに五年間もの時間をかけてゆっくり成長します。ヤゴの生育場所、すなわち卵の産み落とされる場所は、きれいな水が流れる小川などです。

弥生時代の銅鐸にトンボの絵が描かれています。稲が実る頃に飛び回るトンボは日本人にとっては身近な生き物であったと思われます。俳句にたくさん読まれています。一句紹介します。（薫）

蜻蛉や　とりつきかねし　草の上
芭蕉